

2022年5月26日発表
2022年6月9日更新

報道・プレスご担当者様 各位

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会では、今般下記の提言、指針を発表いたします。

1. 「健康格差に対する見解と行動指針 改訂版」
2. 「高齢者における新型コロナウイルス感染症の療養の在り方についての見解と提案」
3. 「デジタルヘルスが可能にするプライマリ・ケアの未来」

第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（大会長：大橋博樹 多摩ファミリークリニック院長）内にてご説明申し上げます。詳細は以下の通りです。

【報道・プレスご担当者様向け発表会】

日時：2022年6月12日（日）11時30分～12時30分
会場：パシフィコ横浜 会議センター 第1会場（メインホール）

進行：大杉泰弘（藤田医科大学 連携地域医療学
日本プライマリ・ケア連合学会 理事 広報委員会委員長）

申込：第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会ウェブサイト
「[プレスの方へのご案内](#)」を参照いただき、お申込みください。

本件に関するお問い合わせ：
一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会 本部
Email：office@primary-care.or.jp

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会について <https://www.primarycare-japan.com/>

2010年4月1日設立 理事長 草場 鉄周（北海道家庭医療学センター 理事長）

プライマリ・ケアは地域の医療を担う重要な役割を持っており、これからも、持続可能な質の高い医療体制を構築し続けることが大切です。

日本プライマリ・ケア連合学会（JPCA）は、総合診療を目指す医師、研修医、医学生をはじめ、プライマリ・ケアに興味を持つ医療従事者（看護師、薬剤師、保健師など）および介護従事者、一般の方すべての皆さんが参加できる学会です。

全国規模の学術集会やセミナー、研修会、参加型のワークショップなど学べる場を数多く提供しており、プライマリ・ケアに関する、最新情報や実践的な技術が学べるよう積極的に活動を行なっています。

【発表概要】

「健康格差に対する見解と行動指針 改訂版」

<http://www.primary-care.or.jp/sdh/>

日本プライマリ・ケア連合学会 健康の社会的決定要因（SDH）検討委員会は、2018年の第9回日本プライマリ・ケア連合学会大会において、「健康格差に対する見解と行動指針」を発表しました。

その後、社会では、コロナ禍をはじめとした大きな変化が生じています。一方、共生社会づくりの進展や社会的処方など、SDHに着目した取り組みも始まっています。

そこで、当学会がその社会的責務として健康格差の是正を進めるべく、SDH検討委員会では「見解と行動指針」の改訂版を作成しました。社会的処方や地域共生社会といった概念、研究や政策提言に関わる重要事項を追記しています。また、特定の医療専門職に限らないプライマリ・ケア従事者全体へのメッセージとなるよう配慮した表現に修正しました。さらに、専攻医研修におけるこの領域の到達目標も明示した内容となっています。

「高齢者における新型コロナウイルス感染症の療養の在り方についての見解と提案」

<https://www.pc-covid19.jp/>

新型コロナウイルス感染症の発生から2年を超え、わが国では、累計陽性者数は730万人を超え、死亡者数は2万9千人に達しています（2022年4月18日現在）。

とくに、高齢者では年齢とともに重症化しやすく、糖尿病などの基礎疾患を有していたり、フレイル状態にあったりすると、死亡するリスクが急激に高まるため、これまで高齢者については、診断時から入院により見守ることが望ましいと考えられてきました。

その一方で、高齢者が長期の隔離入院によって不活発となり、日常生活動作（ADL）の低下や認知機能のさらなる低下を来すことも指摘されるようになってきました。感染リスクを警戒してリハビリテーションが十分に実施されず、フレイル状態を悪化させる高齢者も少なくありません。

2022年1月に始まったオミクロン株を中心とした第6波では、多数の感染者を認めた一方で、それまでの流行と比べれば死亡する高齢者は減少しています。こうしたなか、日本プライマリ・ケア連合学会では、高齢者における新型コロナウイルス感染症療養の在り方について、いのちを救うだけでなく、全人的な観点から見直すべく、見解と提案をまとめました。

「デジタルヘルスが可能にするプライマリ・ケアの未来」

<https://www.primarycare-japan.com/>

日本が目指す新しい社会（Society5.0）にむけて、多くの分野でデジタルトランスフォーメーション（DX）化が進んでおり、医療分野も同様にDX化という大きな転換期を迎えています。少子高齢化や人口減少、医師の偏在など、日本の医療が抱える問題を解決し持続可能な医療を達成するためには、医療現場においてもICTの活用はもはや不可欠になっています。

プライマリ・ケアにおいて、医師—患者間の関係性を構築する上で対面診療による診察やコミュニケーションは重要ですが、新しいデバイスやシステムを使うことへの不安や、デジタルヘルスに関するリテラシー・セキュリティといった課題を多くのプライマリ・ケア医が抱えています。

これまでアプローチできなかった患者へ介入でき、患者のwell-beingに貢献するだけでなく、医師不足や過重労働の改善など医療従事者や地域のヘルスケアシステムの一役を担うべく、日本のプライマリ・ケアを発展させるデジタルヘルスについての提言を、本学会ICT診療委員会にてまとめました。